

平成26年度
さくら市自然環境調査業務委託
(ほ乳類調査)
報告書

平成27年3月

平成理研株式会社

目 次

I. 調査概要	3
1－1 調査件名	3
1－2 調査目的	3
1－3 調査対象地	3
1－4 調査実施日	3
1－5 調査対象	3
II. 調査内容	4
2－1 調査地点の選定	4
2－2 調査方法	5
III. 調査結果	6
3－1 ほ乳類調査	6
3－2 各調査地点の概要	8

資料編 ほ乳類確認位置図
現場写真

I. 調査概要

1-1 調査件名

さくら市自然環境調査業務委託（ほ乳類調査）

1-2 調査目的

本業務は、さくら市環境基本計画に基づき、第1次自然環境調査として平成21年度にほ乳類調査、平成22年度に鳥類・植物調査、平成23年度に両生類・爬虫類・昆虫類調査を実施している。前回の調査から5年目となり、生態系にも変化が生じているものと予測されることから市内の自然環境の状況を把握し、地域の生物多様性の保全のための基礎資料として動植物の現地調査をおこない、その調査結果を取りまとめホームページなどで広く市民に公表することを目的とする。

1-3 調査対象地

栃木県さくら市行政区域内

1-4 調査実施日

夏季：平成26年7月29日、平成26年7月30日

（センサーカメラ：平成26年7月29日～平成26年8月6日）

冬季：平成27年2月9日、平成27年2月10日

1-5 調査対象

平成21年度に自然環境調査を実施しているほ乳類を調査対象とした。

II. 調査内容

2-1 調査地点の選定

平成 21 年度に実施したほ乳類調査地点と同地点で現地調査を実施した。
自然環境調査地点を図 1 に示す。



図 1 自然環境調査地点図

2-2 調査方法

各調査地点に生息するほ乳類を把握するため、視認や現地に残されている生活痕跡（食痕、巣、足跡、糞等）の確認から生息種を推測するフィールドサイン調査とした。また、必要に応じて設置可能な調査地においてセンサーカメラによる調査を実施した。

Ⅲ. 調査結果

3-1 ほ乳類調査

夏季調査及び冬季結果により、確認されたほ乳類は、7科11種であった。なお、調査地点③において、栃木県版レッドデータブックで「要注目」に選定されているアナグマが確認された。

確認されたほ乳類一覧を表1に示す。また、平成21年度の調査結果についてもあわせて示す。

表1 確認されたほ乳類一覧

科名	種名	調査結果												
		平成21年度(冬・春)						平成26年度(夏・冬)						
		丘陵地			河川	水田			丘陵地			河川	水田	
		①	②	③	④	⑤	⑥	①	②	③	④	⑤	⑥	
モグラ	アスマモグラ	◆	◆	◆		◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	◆	
ウサギ	ノウサギ	●▲	●▲	●▲	●			▲◎	●	●▲	●			
リス	ニホンリス			+						+				
	ムサビ								●					
ネズミ	アカネズミ	■			+						+			
イヌ	タヌキ		●	▲					▲		◎			
	キツネ	▲	▲	●▲				●□	●◎	●▲ ×		◎	●	
イタチ	テン								▲◎					
	イタチ				●	●□	●□	●				□▲	●▲	
	アナグマ									◎				
ジャコウネコ	ハクビシ								◎					
7科	11種	4種	4種	5種	3種	2種	2種	4種	7種	5種	4種	3種	3種	

※フィールドサイン調査「◆」：モグラ塚、「●」：糞、「■」：死骸 「□」：目撃、「▲」：足跡 「+」食痕
「×」：巣穴

※センサーカメラによる確認種：「◎」

※ : 栃木県版レッドデータブックで「要注目」に選定されている種を示す。



写真1 撮影されたアナグマ（調査地点③）

3-2 各調査地点の概要

ア) 丘陵地（地点①～③）

調査地の丘陵地は、スギ・ヒノキの植林が多く、一部にまとまったコナラなどが優占する落葉広葉樹林がある。また、谷部は谷津状となっており、水田や畑地等がみられるほか、水路や湿地などの水辺もあり、多様な自然環境を形成している。

本調査では、丘陵地3地点において、ほ乳類10種が確認された。水田や畑地周辺では、アズマモグラ、ノウサギ、タヌキ、キツネ、イタチが確認され、スギ・ヒノキ林や落葉広葉樹林などの樹林地周辺では、ニホンリス、ムササビ、テン、アナグマ、ハクビシンが確認された。

平成21年度に比べ、大きな環境変化や種の減少はみられない。今後も樹林地や耕作地が適切に維持されれば、ほ乳類及び生息環境は保全されることが考えられる。

イ) 河川（地点④）

調査地の河川は、本市を代表とする河川である鬼怒川の河川敷であり、河川の堤防沿いにオニグルミ、アカマツ、ヤナギ類が生育する樹林地がみられるほか、シナダレスズメガヤなどのイネ科植物が優占する草地が広がっている。

本調査では、河川1地点において、ほ乳類4種が確認された。樹林地内や草地のオニグルミが生育する周辺では、アカネズミが確認され、樹林地内の林床や草地では、ノウサギ、タヌキが確認された。また、堤防の草地では、アズマモグラが確認された。

平成21年度に比べ、大きな環境変化や種の減少はみられない。河川に多いオニグルミは、アカネズミの食料として必要であり、まとまった樹林地は、ノウサギの生息場所となっていることから、今後も適切に維持されることが望まれる。

ウ) 水田（地点⑤、⑥）

調査地の水田は、市内に広く見られる。水田周辺には大小様々な水路がみられ、水田地帯には、小規模な社寺林や屋敷林が点在している。

本調査では、水田2地点において、ほ乳類3種が確認された。水田や畑地周辺では、アズマモグラが多数確認され、水路内やその周辺では、キツネ、イタチが確認された。

平成21年度に比べ、大きな環境変化や種の減少はみられない。今後も水路や社寺林、屋敷林が適切に維持されれば、ほ乳類及び生息環境は保全されることが考えられる。